

上州武尊連峰・剣ヶ峰山&秘峰獅子ヶ鼻山（個人山行）

（報告）赤澤 東洋

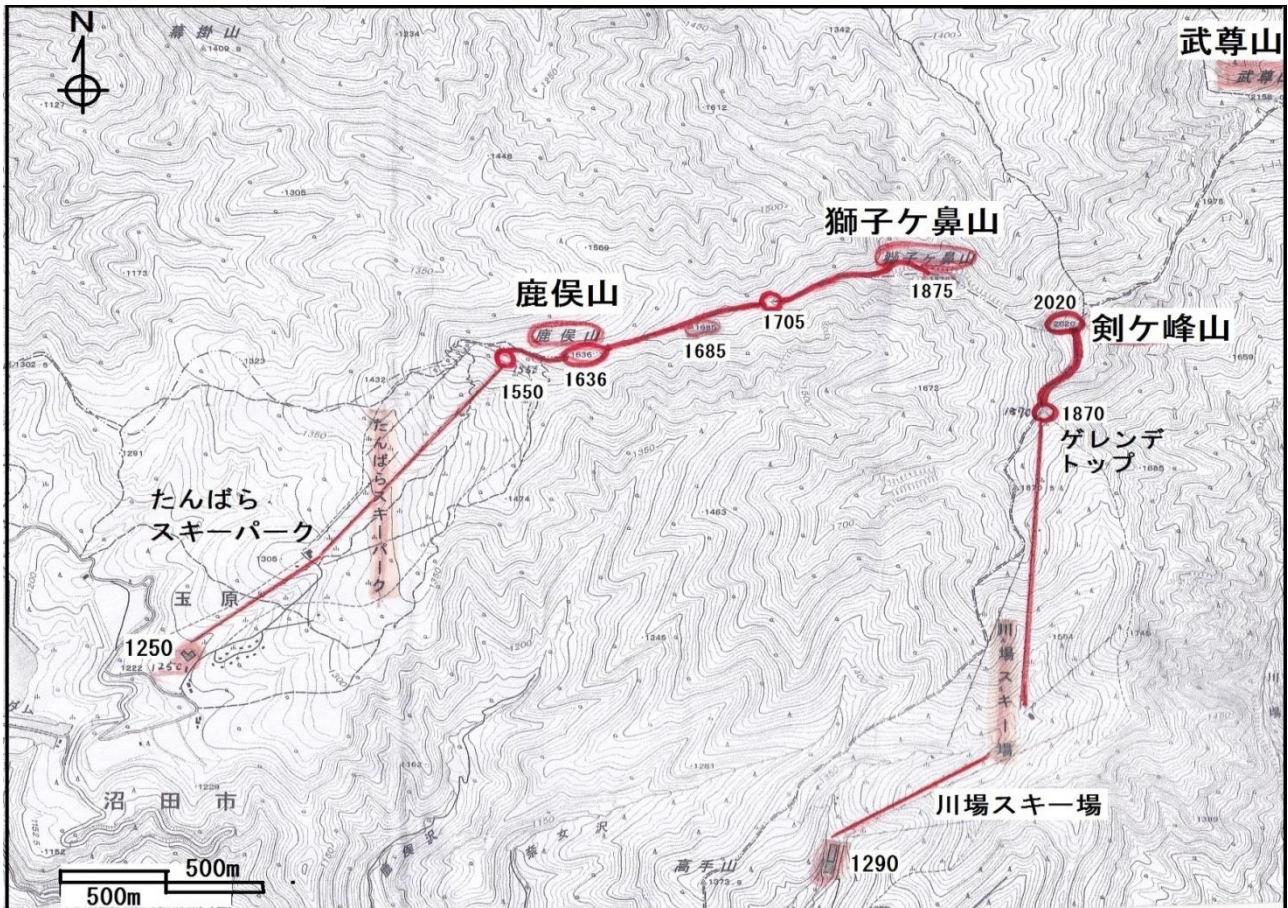
◎山行期日：2021年4月6日（火）～7日（水）



（獅子ヶ鼻山ノ肩下 1705m 峰より仰ぐ獅子ヶ鼻山、右奥は剣ヶ峰山。撮影：本山行の1ヶ月前の3月4日）

<今回は融雪が進んでいて次々ページ下段の写真のように地肌が露わになっていた>

年明け早々に発令された首都圏の新型コロナ緊急事態宣言は延長、再延長と続いたが漸く3月21日に解除されたので、懸案の上州武尊山に出かける事にした。



西国育ちで関東や東北の山にはあまり縁がなかったという X さん、雪山渴望の Y さん、Z さんに声を掛け、JR 高崎線上尾駅前集合し、剣ヶ峰山（2020m）の登山口川場スキー場に向かう。上尾から 2 時間 20 分、裏磐梯に比べれば随分近く、ここだけなら充分日帰り可能な距離だ。スキー場はもうアチコチ地肌が出てグレンデはシャーベット状になっているが、スキーやボードの若者でまだそれなりに賑わっている。

受付で 1 人ずつ細かな登山届を提出しココヘリ（電波発信機）を借りる。全国に先駆け遭難対策として川場スキー場では登山者に対してココヘリ加入を義務化している（2019 年より）が、これは良いシステムと云えるだろう（料金：往復のリフト代込みで 2000 円）。

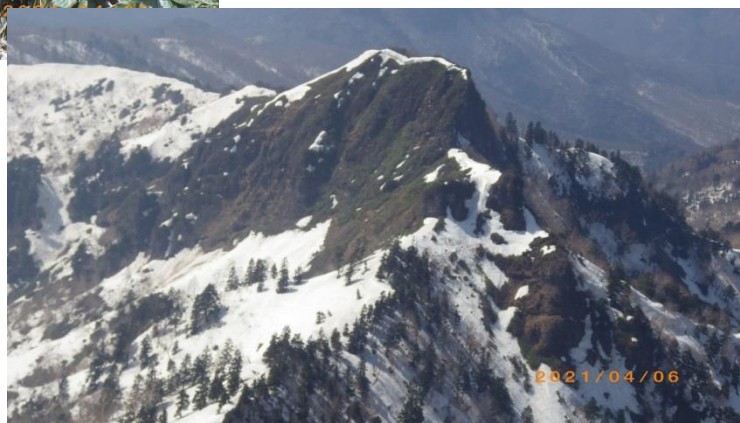
天気は上々。リフト 2 本（桜川エクスプレス&クリスタルエクスプレス）乗り継いでグレンデトップ（1870m）へ。このリフトは高速でわずか 15 分そこそこで標高差 580m 稼いでくれるのだから便利なもので老兵には有難い。が、乗り降りの際にはご注意あれ。

12 時丁度全員アイゼン装着し出発。いきなりの急登でアゴを出す。雪は少なく直に夏道露わになり丸太を渡した階段は歩き難く、休み休みゆっくり登る。途中、明日登る予定の獅子ヶ鼻山を偵察したが、南面は切り立った絶壁でどう見ても通過出来そうもない。鹿俣山から獅子ヶ鼻山までなら尾根上を歩けそうだが剣ヶ峰山までの縦走を狙うとしたら相当な覚悟を要するに違いなく我々には到底無理だろう。



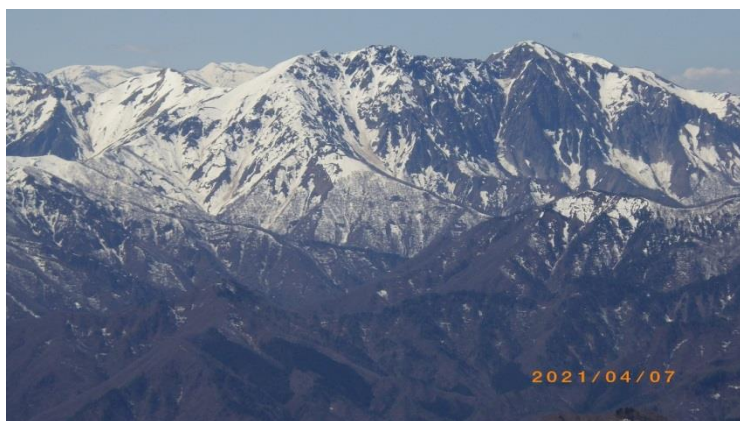
（←夏道露わな剣ヶ峰山への急登
撮影：4月6日）

（↓剣ヶ峰山中腹より獅子ヶ鼻山南壁を望む
撮影：4月6日）



50 分程でベンチのある平坦な休憩場に達し一服、X さんはここまでとし、3 人で頂上を目指した。例年ならまだ全面雪に覆われている剣ヶ峰山の頂上だが、寡雪の今年はハイ松や石楠花等の灌木に覆われ、わずかに残る雪上に譲り合って何とか 2 人並べる位に狭く落ち着かない。

標高 2020m は昨年と一緒なので、面白い趣向かと昨年 9 月に家内と登ったばかりで今回は 5 度目だ。天気はまずまずで谷川岳の黒々とした一ノ倉沢の岩壁も見えるが、雪が少なくカメラを手にする気も起きずイマイチ、早々と退散し、X さんと合流、下山もリフトに乗車し今宵の宿、老神温泉・山楽荘に向かった。



（黒々とした岩壁の目立つ谷川岳一ノ倉沢を望む）

2日目、獅子ヶ鼻山。この山を始めて意識したのは2015年10月、苗場山の前哨戦としてFさん、Tさん、Zさんと玉原高原からブナ林の中2時間弱かけて鹿俣山に登り、頂上でコーヒーを沸かしていた処、ひょっこりと藪の中から飛び出してきた若者が3人、地元の人達で獅子ヶ鼻山に登ってきたと云う。以前は登山道があったが、今は廃道になり酷い藪漕ぎを強いられたという。岡田敏夫氏の「奥利根の秘峰・上州武尊山」（昭和60年12月刊行、東京新聞出版局）は武尊山の優れた研究書として定評があり愛読しているが、ここでも獅子ヶ鼻山はヤブ尾根で険しい岩峰、積雪期の山として紹介されており、私にとって登り残した山の一つ、あの時以来ずっといつか登らねばと思っていたのだ。

実は今回に備えてコロナ緊急事態宣言延長のさ中ではあったが、3月初めにコソッと妻と下見に来て、途中退却したものの足が揃えば登れると確信して白羽の矢を立てたのが今回のメンバーというわけである。

玉原スキー場は川場と異なりココヘリレンタルはなく登山届もアッサリしたもの、リフト利用も上りだけで、下りはゲレンデ内を歩いて下らねばならないという違いがある。

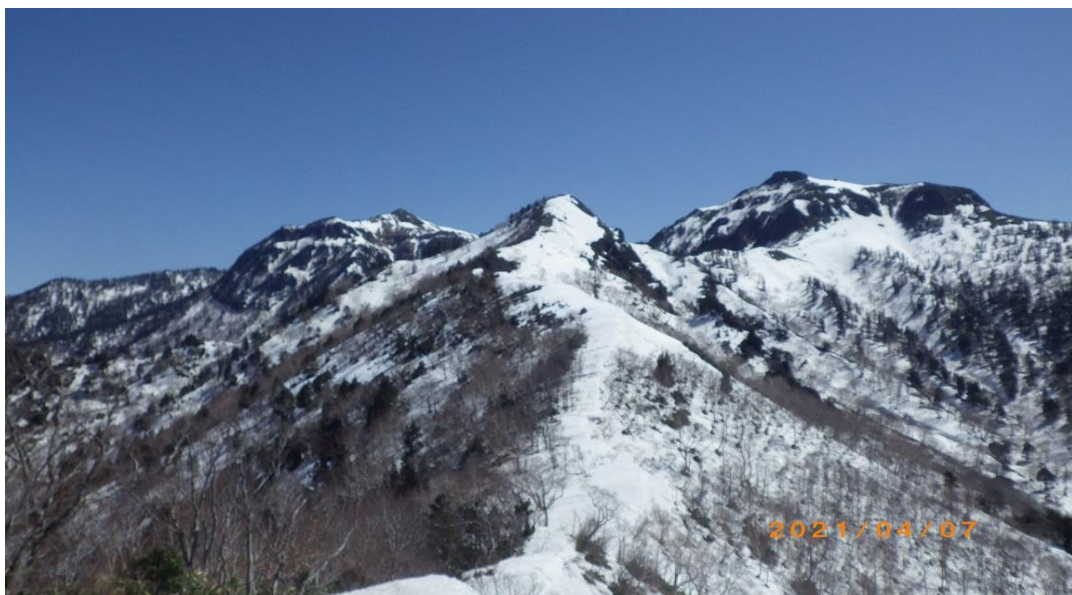
3月初めの下見時は2cm以上の積雪でスノーシューだったが、今はせいぜい1cm程度でアイゼンにて出発、急登は無く25分で鹿俣山に着く。3月は深い新雪に難儀し30分かかっていたのでまずまず



(玉原スキー場から左：獅子ヶ鼻山、右：剣ヶ峰山。撮影3月4日)

というところ、ここからは又3人で更に先へと進む。10時半、雪は少ないが何とか尾根伝いに3月退却した1705m地点まで到達、目指す獅子ヶ鼻山の全貌が露わなる。

ここから大きく下って登り返すのに恐れをなし、前回はここで諦めたのだが、雪が少ないせいか頂上は近そうに見え、そう恐れることもなさそうで今回は心強い仲間もいるので迷わず前進とする。が、楽そうに見えたのは錯覚で、じきに尾根は藪に覆われ直進は不可能になり左手に大きく巻かねばならなくなった。これは想定外で、ここまで雪が消えているとは甘かったかと反省する。



(1705m峰より仰ぐ獅子ヶ鼻山(中央)、沖武尊(左)、剣ヶ峰山(右)。前々ページ冒頭の写真と較べて雪が少ない)

先行者のトレースは沢山あり、それがまちまちであちこちと乱れており、とにかく藪の薄い所を選んで灌木帯の中を上へ上へと苦しい登りを続ける。3月初めの雪の多い時なら尾根通しで歩けたはずで時

期が悪かったとしか言いようがないところだ。もう間もなく尾根に戻れそうだという時、ラストの Y さんが灌木に足を引っかけたかして転倒、滑り出したので肝を冷やす。頭から突っ込んで滑落したのではなく、横にゆっくりとゴロンゴロンと回転しながら落ちていく。こちらは慌てて Z さんと上からピッケル！ピッケル！ピッケルで止めろ！と怒鳴る。最初の 1 回転目は気を失っていたのか何の動きもなく、2 回転目に漸くピッケル握り直し、結局 3 回転半 20 分程転がってピッケル制動が巧くいき止まる事が出来たのでホッと胸を撫で下ろした。これも過去に何度も実施した会の雪山研修会に参加して訓練した賜物というもの。下の写真を見て頂ければ分かるが、もし止まらなかったとしても、その先は傾斜のある広い雪原、大事故にはならなかったと思うが、登り返すのが大変で無事で本当に良かった。

前日の剣ヶ峰山の時に、ピッケル制動のピッケルの持ち方等の確認をしておいたのが功を奏したもので、日ごろの心掛けが大事なことを確認した。後で聞いてみると転倒した時は目を瞑ってしまい咄嗟の反応が遅れてしまったのと、ピッケルが登山ズボンに突き刺さって手間取ってしまったとの事だった。



(獅子ヶ鼻山頂上を望む。頂上直下の最上部左肩で転倒)



(ハイ松と黒檜の幼木の上の狭い雪庇を歩く。獅子ヶ鼻山頂上はこの先、左手は沖武尊)



(こんな笹藪も出てきた)

転倒地点からものの 10 分もかからず、念願の獅子ヶ鼻山頂上に出た。これでまた一つ我が課題を果たす事が出来て大満足。雪がたっぷりある時に又来る事を誓い、ゲレンデトップから駐車場までは歩いて下り (35 分)、X さんと合流し帰路についた。

《コースタイム》

剣ヶ峰山： ゲレンデトップ⇄剣ヶ峰山 上り 1 時間 15 分 下り 1 時間

獅子ヶ鼻山：ゲレンデトップ⇄獅子ヶ鼻山 上り 2 時間 25 分 下り 1 時間 50 分 + α

(了)